

バクトリア王国発行ギリシア語インド語併用貨幣の特徴：付銘文総表

吉池孝一

1. はじめに

前回 278 号で、「銘文総表(1)」として総表の前半を提示した。今回は後半を提示するつもりで作業を始めたが、前半に修正と補充が多く生じたため、前半と後半を合わせ「銘文総表」として本稿末尾に添付することとした。添付の銘文総表を利用してバクトリア王国発行貨幣の特徴について議論する。

さて、所謂インド・グreek朝(バクトリア王国のギリシア人王のうちヒンドゥークシュ山脈を越えてインド西北のガンダーラー帯に侵出した王の国をこのように呼ぶ場合がある)に於いて、ギリシア語とインド語の二言語を、貨幣のそれぞれの面に併用する銘文を持つ貨幣が発行された。



表



裏

上はインド・グreek朝の最盛期を築いたメナンドロス(ミリンダ)王の貨幣である。<sup>おもて</sup>表にギリシア文字によるギリシア語で *basileōs sō[tēros]* <sup>改行</sup> *menandroy* 「救済者たる王メナンドロスの」とある。<sup>うら</sup>裏にカローシュティー文字によるインド語(プラークリット)で *maharajasa tratarasa* <sup>改行</sup> *menadrasa* 「救済者たる大王メナンドロスの」とある。表裏はほぼ同様の意味となる。一行目の銘文の文字は貨幣の内から外を見るように並ぶ。二行目は王名属格でありその文字は貨幣の外から内を見るように並ぶ。それぞれの言語に於いて二行の銘文となっている。このような貨幣は、バクトリア王国以前には絶無であり、ギリシアとインドとの接触によって生み出されたものである。このような、貨幣史において空前とも言い得る二言語併用貨幣が、どのように出現したかを検討する。

具体的な貨幣資料としては Michael Mitchiner 氏の *Indo-Greek and Indo-Scythian Coinage* を利用する。これは 1975 年から 1976 年にかけて全 9 巻のシリーズとして出版されたものである。その内、バクトリア貨幣に関わる部分は巻 1, 2, 3 の 3 冊である。博物館や諸研究機関から発行された貨幣カタログの画像、諸論文に掲載されたの画像、一般の貨幣のカタログの画像を集めて分類したものである。鮮明さに欠ける画像も含まれるが、バクトリア王国の貨幣の情報はほぼ網羅されているとの印象を私は持っている。この情報を

Narain(2003)に基づく「王の系譜と五群」(添付の銘文総表にある)の王の系譜に当てはめて調査を進めた。王の系譜と即位年は研究者により、だいぶ異なるようであるが、ここではナライン氏の説により作業をした。

## 2. 貨幣の形と銘文の行数

本稿末尾に添付した「銘文総表」に依り、貨幣の形が円形であるか或いは方形であるか、銘文の行数が1行であるか或いは2行であるか、という事の関係を表にすると下に挙げる通りである。なお、下表中の11メナンドロスの「3語2行113」は、銘文は3語で2行となるものが113枚有る事を示す。「表1行/裏2行3」は、貨幣の表おもてと裏うらで行数が異なる場合である。枚数を合算する場合、1行3枚、2行3枚のように枚数を重複して数える。貨幣枚数を数え上げる作業は、現存する貨幣の枚数の多寡は貯蔵庫(甕などに大量の貨幣を収めたもの)の発見の有無などの偶然に左右されるが、総じて現存する枚数の多寡は当時発行された枚数の多寡を反映する、との想定に依るものである。なお、ギリシア文字ギリシア語の銘文はG、ブラーフミー文字インド語の銘文はB、カローシュティー文字インド語(ブラークリット)はKと略記する場合がある。表がGで裏がBの場合はG/B、表がGで裏がKの場合はG/Kとする。

以下、添付の「銘文総表」を、01ディオドトスI世(前256-前248)から06アンティマコスI世(前190-前180)までの第1段階(二言語併用貨幣出現以前)、07パンタレオン(前185-前175)から10エウクラティデスI世(前171-前155)までの第2段階(二言語併用貨幣出現の時期)、11メナンドロス(前155-前130)の第3段階(バクトリア王国最盛期の王。二言語併用貨幣の様式が萌す時期)、12ストラトンI世(前130-前95)から34ペウコラオス(無記-前95)までの第4段階(メナンドロス以降。二言語併用貨幣の様式が整う時期)に分けて議論する。注意すべき箇所には網掛けを付した。

	二言語併用貨幣		一言語貨幣
	円形	方形	
<b>第1段階</b>			
01 デイオドトス I 世(前 256-前 248)	無し		円形 G2 語 2 行 15
02 デイオドトス II 世(前 248-前 235)	無し		円形 G2 語 2 行 31
03 エウテュデモス I 世(前 235-前 200)	無し		円形 G2 語 2 行 52
04 デメトリオス I 世(前 200-前 185)	無し		円形 G2 語 2 行 48
05 エウテュデモス II 世(前 200-前 190)	無し		円形 G2 語 2 行 25
06 アンティマコス I 世(前 190-前 180)	無し		円形表 G2 語 2 行 円形裏 G2 語 2 行 /裏 G3 語 2 行 3 方形 G2 語 2 行 4

無し

円形 195 枚 方形 4 枚

第 1 段階には二言語併用貨幣は無い。一言語貨幣は、円形が 195 枚、方形が 4 枚である。いずれも銘文はギリシア語（表中では G とした）。バクトリア王国の最初期に於いては、円形打刻でギリシア語 2 語 2 行の銘文を持つギリシア貨幣の様式が行われた。これは典型的なギリシア様式の貨幣である。

第 1 段階の最後の 06 アンティマコス I 世は興味深い。表<sup>おもて</sup>と裏<sup>うら</sup>の両面にギリシア語の銘文を持つ貨幣が 3 枚、インド様式の反映と見られる方形の貨幣が 4 枚ある。方形貨幣の銘文は、ギリシア語で上辺に左から右に *basileōs*(王の)とあり、下辺に左から右に *antimaxoy* (アンティマコスの)とある。

### 第 2 段階

	二言語併用貨幣		一言語貨幣
	円形	方形	
07 パンタレオン(前 185-前 175)	無し	G/B2 語 2 行 4	円形 G2 語 2 行 7
08 アガトクレス(前 180-前 165)	無し	G/B2 語 2 行 7	円形 G2 語 2 行 20 円形 G3 語 2 行 1 円形表 G3 語 2 行 /裏 G3 語 2 行 1 円形表 G2 語 2 行 /裏 G3 語 2 行 5
09 デメトリオス II 世(前 180-前 165)	G/K3 語 2 行 2	G/K3 語 1 行 2	無し
10 エウクラティデス I 世(前 171-前 155)	無し	G/K3 語 1 行 11 G/K 3 語 2 行 1	円形 G2 語 2 行 3
2 枚 内訳(1 行無し) (2 行 2 枚)			25 枚 内訳(1 行 13 枚) (2 行 12 枚)
			円形 37 枚 方形 0 枚

第 2 段階は二言語併用貨幣が出現した時期である。右端に記した一言語貨幣を見ると、円形が 37 枚、方形が 0 枚である。銘文は全てギリシア語。第 1 段階と同様に、一言語貨幣は、円形打刻でギリシア語 2 行の銘文を持つ典型的なギリシア様式の貨幣である。

問題は二言語併用貨幣の在り方である。円形が 2 枚、方形が 25 枚である。方形が主となっている。このような分布の偏りをどの様に理解するか。私はインド様式が反映した方形貨幣から二言語併用の銘文が始まったと見ている。

### 第 3 段階

11 メナンドロス(前155-前130)	G/K3 語 1 行 18 G/K 3 語 2 行 113	G/K 3 語 1 行 94 G/K 3 語 2 行 12 G/K3 語表 1 行 /裏 2 行 3 G/K 3 語表 2 行 /裏 1 行 1	円形 G3 語 2 行 2
	131 枚 内訳(1 行 18 枚) (2 行 113 枚)	114 枚 内訳(1 行 98 枚) (2 行 16 枚)	円形 2 枚 方形 0 枚

第3段階は、バクトリア王国の最盛期を築いたメナンドロス王の時期である。二言語併用貨幣が、円形か方形かという事について大きな枚数の差は無い。先に見た第2段階では円形貨幣の枚数より方形枚数の枚数のほうが多く、これに依って二言語併用という銘文が方形貨幣から始まったと推定した。ところが、第3段階では、円形貨幣と方形貨幣の枚数に大きな隔たりは無くなり、次に述べる第4段階では円形貨幣の枚数は方形貨幣の二倍を越える。これは、方形貨幣に発した二言語の併用という様式が、時代を下るとともに円形貨幣に広まり、ついには円形貨幣が主となったことを示す。

更に興味深い事に、二言語併用貨幣の形と、銘文の行数との間に、一定の関係が出てくる。どういう事かと言うと、第2段階では貨幣の形と行数との間に特段の関係は認められないが、第3段階になると様相が異なる。第3段階では、円形貨幣の銘文が、1行であるものは18枚、2行であるものは113枚となる。2行の銘文を持つ円形貨幣は86.2%である。方形貨幣を見れば、1行であるものは98枚、2行であるものは16枚である。1行の銘文を持つ方形貨幣は85.9%である。「円形2行、方形1行」となる傾向が認められる。このようなメナンドロス発行貨幣の傾向は、メナンドロス以降の第4段階で強化される。

	二言語併用貨幣		一言語貨幣
	円形	方形	
<b>第4段階</b>			
<b>第一群</b>			
12 ストラトン I 世(前130-前95)	G/K3-5 語 2 行 71	G/K 3-4 語 1 行 22	無し
13 アポッドトス(前115-前95)	G/K3-6 語 2 行 66	G/K3 語 1 行 18 <sup>1</sup> G/K3, 5 語 2 行 4	方形 <sup>2</sup> K3 語 1 行 6
14 ゾイロス II 世(前95-前80)	G/K3 語 2 行 51	G/K3 語 1 行 1	円形 K3 語 2 行 7
15 ディオニュシウス(前95-前80)	G/K3 語 2 行 3	G/K 3 語 1 行 7 <sup>3</sup>	方形 K3 語 1 行 5

<sup>1</sup> 【431 方形 1 行】 4 枚は地金円形・銘文方形。

<sup>2</sup> 地金円形・銘文方形。

16 アポロパネス(前95-前80)	G/K 3語2行9	無し	無し
17 ストラトンⅡ世(前80-前75)	G/K3語2行20	無し	円形K3語2行1
<b>第二群</b>			
18 アンティマコスⅡ世(前130-前125)	G/K3語1行16	G/K3語1行6	無し
19 ピロクセノス(前125-前115)	G/K3語2行26	G/K3語1行37	円形G3語2行3
20 ニキアス(前95-前85)	G/K3語2行4	G/K3語1行6	無し
21 ヒッポストラトス(前85-前70)	G/K3-5語2行32	G/K3-4語1行15	無し
<b>第三群</b>			
22 ゾイロスⅠ世(無記-前125)	G/K3語2行19	表G3語2行 /裏K1行5	無し
23 リュシアス(前120-前110)	G/K3語2行21	G/K3語1行14	円形G3語1行 <sup>3</sup>
24 テオピロス(無記-前85)	G/K3語2行4	G/K3語1行5	円形G3語2行 ☉下横線2
<b>第四群</b>			
25 エウクラティデスⅡ世(前140-無記)	G/K3語2行4	G/K3, 2語2行38	円形G2語2行55 円形G3語1行 <sup>3</sup> 円形G3語2行32 円形表G3語2行 /裏G3語2行7 以上銀貨 円形G3語2行10 以上銅貨
26 アルケビオス(前130-前120)	G/K4語2行36 G/K5, 4語2行1	G/K4語1行8	円形G4語2行1
27 ヘリオクレスⅡ世(前120-前115)	G/K3語2行32	G/K3語1行17	円形G3語2行31
28 アンティアルキダス(前115-前100)	G/K3語2行44	G/K3語1行16	円形G3語2行2 ☉(下は横線) 円形G3語2行 ☉ <sub>3</sub>
29 ディオメデス(前95-前85)	G/K3語2行20	G/K3語1行9	無し
30 テレポス(前95-前80)	G/K3語2行2	G/K3語1行5	無し
31 アミュンタス(前85-前75)	G/K3語2行22	G/K3語1行8	円形G3語2行2
32 カリオペ=ヘルマイオス(前75-前55)	G/K4語2行6 G/K3語2行126	G/K3語1行14	円形G3語2行1
<b>第五群</b>			

<sup>3</sup> 【456 方形1行】1枚は地金円形・銘文方形。

33 アルテミドロス(無記-前 95)	G/K3 語 2 行 11	G/K3 語 1 行 8	無し
34 ペウコロオス(無記-前 95)	G/K5, 4 語 2 行 1	G/K 5, 4 語 1 行 2	無し
	円形 647 枚	方形 270 枚	円形 163 枚
	内訳(1 行 16)	内訳(1 行 223)	方形 11 枚
	(2 行 631)	(2 行 47)	

第 4 段階はメナンドロス以降である。二言語併用貨幣に於ける円形貨幣の枚数は方形貨幣の二倍を越える。これは、円形貨幣と二言語併用の銘文との結びつきが強くなったことを示す。また、円形貨幣の銘文は 2 行となり、方形貨幣の銘文は 1 行となる傾向も強く出てくる。

### 3. 二言語併用貨幣は方形貨幣より始まったか

以上の第 1 段階から第 4 段階の貨幣の分布を見ると、二言語併用貨幣が出現した第 2 段階の円形貨幣と方形貨幣の枚数の分布に目を引くものがある。二言語併用の円形貨幣が 2 枚、二言語併用の方形貨幣が 25 枚である。それに対して、同時期の一言語貨幣は、円形が 37 枚で方形は 0 枚である。以上を要するに、方形貨幣が二言語併用の銘文を持ち、円形貨幣が一言語の銘文を持つという傾向を見て取る事ができる。このような分布の偏りをどのように理解するか。私は「インド様式が反映した方形貨幣から二言語併用の銘文が始まった」と見て大過は無いと考える。

### 4. 「円形 2 行」「方形 1 行」という様式はなぜ生じたか

貨幣の形と銘文の行数について、第 3, 4 段階で新たな傾向が出てくる。第 3 段階では、円形貨幣のうち 2 行の銘文を持つものは 86.2% であり、方形貨幣のうち 1 行の銘文を持つものは 85.9% である。第 4 段階では、円形貨幣のうち 2 行の銘文を持つものは 97.5% であり、方形貨幣のうち 1 行の銘文を持つものは 82.5% である。「円形 2 行」「方形 1 行」という傾向が第 3 段階と第 4 段階共に顕著である。顕著ではあるのだが、第 4 段階の「方形 1 行」のパーセントが 82.5% と第 3 段階に比べてやや低いところが気になる。25 エウクラティデス II 世(前 140- 無記)の 2 行 38 枚が第 4 段階の「方形 1 行」パーセントを押し下げていることに注目したい。この 2 行 38 枚の語数は表裏で異なる。表は 3 語、裏は 2 語である。2 語の銘文を持つものは第 4 段階中この 38 枚のみである。2 語の銘文は第 1 段階と第 2 段階に見られ、全て 2 行となる。これは、初期の一言語貨幣と二言語併用貨幣の特徴とも言い得る。2 行 38 枚は裏面の 2 語の銘文に影響を受け、表面の 3 語の銘文も 2 行となったと想定することができる。そうであるならば、第 4 段階の「方形 1 行」のパーセントは本来もっと高かったとも見ることができる。第 3 段階の「円形 2 行」「方形 1 行」という傾向は、第 4 段階で更に強まったと見て大過ないであろう。

## 5. 「円形 2 行」「方形 1 行」の銘文排列の型

第 1 段階の貨幣銘文は、全て 2 語で 2 行となっている。これを基本形とするならば、第 2 段階以降の貨幣も、たとえ銘文が 2 語以上であったとしても、また二言語併用貨幣であったとしても、2 行で書くのが順当である。しかし実際は「円形 2 行」の型は○(上 1 行目、下 2 行目。2 行目は王名属格となる)に集約して行き、他方の「方形 1 行」の型は□に集約して行く。このように型の集約が為され「円形 2 行」「方形 1 行」となる。問題は方形貨幣が 2 行ではなく 1 行になるのは何故かということにあらう。方形貨幣の場合、四辺に銘文を配すことになる訳であるが、一行の場合は主に、ギリシア語は左→上→右、インド語(プラークリット)は右→上→左のように□となる。二行の場合は主に、ギリシア語は左→上→下□となり、インド語(プラークリット)は右→上→下□となる。或いは左右が空く□と□よりも、下が空く□の方がバランスが良いとの判断により、一行の□に集約して行ったのかもしれない。

## 6. おわりに

第 2 段階から第 4 段階を通して見ると、二言語併用貨幣の特徴として次の二点を挙げることができる。

一点目は、表<sup>おもて</sup>にギリシア文字ギリシア語の銘文があり、裏<sup>うら</sup>にカローシュティエー文字インド語(プラークリット)の銘文がある。なお裏にブラーフミー文字インド語の銘文が出るものもあるが最初期に少数例あるのみ。二点目は、表と裏の銘文の内容はほぼ同一となるということである。

このような貨幣はバクトリア王国以前には絶無である。ギリシア人勢力がインド人勢力と接触した事を契機として二言語併用貨幣が出現したわけであるが、この空前とも言うべき出来事が、具体的にどのような経緯を経て出現したか、それを想定すると次の通りである。

バクトリア王国の貨幣銘文には、次のような①②③の三つのパターンがある。①ギリシア語を裏面のみに書く(第 1 段階) → ②ギリシア語を表裏両面に書く(第 1 段階の 06 アンティマコス I 世と第 2 段階の 08 アガトクレスの一部) → ③ギリシア語とインド語を表裏両面に書く(第 3 段階)。興味深いことに、③が成立した頃、インド側にも既に、ブラーフミー文字インド語で王名属格を書く貨幣銘文があった<sup>4</sup>。そうであるならば、②のギリシ

<sup>4</sup> J, Allan(1936)によると、紀元前 3 世紀よりも古い時代の貨幣で、銘文を持つものは無く、紀元前 3 世紀に至ると銘文を持つ貨幣が三種出てくる。いずれの貨幣も王名属格の銘文を持つ。J, Allan は、‘前 3 世紀’とする根拠を明示しないが、三種の貨幣のブラーフミー文字の字形は、前 3 世紀のアショーカ王碑文のブラーフミー文字の字形と同じである。三種の貨幣の内、最も古いものとされる貨幣のブラーフミー文字の字形の一部は、アショーカ王碑文にしか無い字形となっている。また、この貨幣の銘文の書写方向が興味深い。左から右ではなく、右から左という古風な書写方向となっている。以上の二点により、少なくとも三種の内、最古とされる貨幣については、前 3 世紀に発行された貨幣と見て、特段の不都合はない。問題は、前 3 世紀だとして、この王名属格の銘文が、ギリシア様式の影響によって成立したものか、それとも独自のものかということである。両言語の王名属格が、

ア語の片方をインド語に入れ替えることによって、無理なく③の二言語併用貨幣を作り出すことができる。そのインド語への入れ替えが方形貨幣から始まったとするわけであるが、それはなぜか。デメトリオス I 世の時代にインド西北に侵出し、その子の代より二言語併用貨幣は現れた。そのことに就いて中村元・早島鏡正(1963)『ミリンダ王の問い』は「貨幣も、征服者のみならず被征服者の必要にも応じたものでなければならなかった。」とする。この考えに従うならば、被征服者であるインド人の必要に応じ、インド人にとって身近な存在であった方形貨幣を採用し、その裏面にインド語を併記し、二言語併用貨幣を作ったということであろう。非支配者であるインド人の影響は意外に大きなものであったということになる。

### 付 1 : Narain (2003)によるバクトリア王の系譜と五群

ギリシア語とインド語の二言語併用という様式はどのように出現し、その後、その様式は最終的にどのようなものとして確立したかを調査する。そのために、Narain (2003:305)に掲載されたバクトリア王の系譜を利用し、二言語併用貨幣の銘文の総表を作成する。Narain (2003:305)に掲載されたバクトリア王の系譜は下の図 1 のとおりであるが、一群から五群の枠組みは、吉池が Narain 氏の説によって書き加えた。Narain (2003:241-242)に五群の別につき次のようにある。

**第一群：**この群の共通点はパラス・アテナ女神図像あるいはアポロン神図像の使用 (These kings use both Pallas and Apollo)

**第二群：**この群の共通点は跳ね馬に乗る王の図像の使用 (....., who are connected with each other by their common use of the 'king on prancing horse' type.)

**第三群：**この群の共通点はヘラクレス神図像の使用 (Zoilus I, Lysias, and Theophilus use Heracles in common,)

**第四群：**この群の共通点はゼウス神図像の使用にあるが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイを使用(.....,who use Apollo and Dioscuri respectively, the kings of this group are associated by their main type,

---

互いの影響に依らず、独立して存在していたとすると、そのことを証するためには、余程の論拠と議論が必要となる。他方の見方により、ギリシア語の影響により前 3 世紀には既にインド語で王名属格を書く貨幣が発行されていたとした方が無難であろう。無難ではあるが、前 3 世紀というと、アレクサンドロスの東征の最中であり、ギリシアはインドにとって敵対する勢力である。その敵対する勢力が発行した貨幣の影響を、インドはどのように被ったか、それを明らかにする必要がある。或いは、J, Allan の前 3 世紀とする推定に依らず、発行時期を前 2 世紀以降に引き下げて、バクトリア王国が発行した貨幣の影響であるとするならば、問題は氷解するが、なぜ古風な字形と書写方向が用いられたかということについて納得のゆく説明が必要となる。いずれにしても課題は残るが、ここでは、新たな論拠を得るまでの暫定的な措置として、J, Allan の推定に従い前 3 世紀発行の貨幣としておきたい。



## 付 2 : 二言語併用貨幣の銘文総表

貨幣銘文の検討の順番は「図 1 王の系譜と五群」に依る。具体的な貨幣資料としては Michael Mitchiner 氏の *Indo-Greek and Indo-Scythian Coinage* を利用する。これは 1975 年から 1976 年にかけて全 9 巻のシリーズとして出版されたものである。その内バクトリア貨幣に関わる部分は巻 1, 2, 3 の 3 冊である。博物館や諸研究機関から発行された貨幣カタログ、諸論文に掲載されたの画像、一般の貨幣のカタログの画像を集めて分類したものである。鮮明さに欠ける画像も含まれるが、バクトリア王国貨幣の情報はほぼ網羅されているとの印象を私は持っている。この情報を Narain(2003)に基ずく「図 1 の王の系譜と五群」の王の系譜に当てはめて調査を進めることにする。王の系譜と即位年は研究者によりだいぶ異なるようであるが、ここではナライン氏の説により作業をする。貨幣の形態がギリシア様式の円形か、それともインド様式の方角（円形も少なくない）かという点、二言語併用貨幣の銘文がどのようなものであるかという点に着目して銘文の総表を作り表 1 とする。二言語併用貨幣の様式が、何故出現したか、どのように出現したか、最終的にどのような様式として確立したかを検討するための資料としたい。

### 総表の説明

- ・王名の表記は、ギリシア語とインド語とでは異なるが、訳文においては前田耕作 (2019:159) に掲載された表「グレコ・バクトリア諸王の系譜 (ナラインによる)」の片仮名表記による。

- ・二言語併用貨幣の発行が無い王は「二言語併用無し」とする。発行がある王は銘文を提示する。

- ・【】内の数字は Mitchiner (1975)の貨幣番号。

- ・貨幣の形態（円形か方形か）と銘文が同一である場合、画像が異なっているも、一つにまとめ、貨幣番号が若い 1 例を代表として提示する。その一つにまとめた貨幣は、※を付して「※【15, 152】は【149】と同じ」のように注記して示す。

- ・Mitchiner (1975)に銘文の原文が翻字されていても、貨幣の画像が不鮮明で確認できないものは採用しない。

- ・銘文及び引用辞書の原文はローマ字に翻字して示す。

- ・「Greek」はギリシア文字ギリシア語の略記。「Brāhmī」はブラーフミー文字インド語の略記。「Kharoshthi」はカローシュティー文字インド語（プラークリット）の略記とする。

- ・銘文には一行だけのものと、二行にわたるものがある。一行目（貨幣の内側から外を見るように文字が並ぶ）には下線\_\_\_\_\_を付し、二行目（貨幣の外側から内側を見るように文字が並ぶ）には下線\_\_\_\_\_を付す。行間に／を付して二行であることを明示する。

- ・表中の「※銘文の配置」は方形（ほぼ正方形）貨幣の四辺（上下左右）と銘文を対応させたもの。

- ・発行枚数の考え方。Mitchiner (1975)に掲載された枚数を現在における“発見数”と見な

し、発見数が多いものは、当時の発行数も多かったと考える。【161 方形 2 行】4 枚のように【】の後に枚数を記す。

・右端の○や□等は銘文配置の型である。前者は円形貨幣で上半分が 1 行目、下半分が 2 行目。後者は方形貨幣の一行としての配置の一つの型であり、ギリシア語としては左→上→右の順に、インド語（プラークリットなど）としては右→上→左の順に配置される。

・この表は二言語併用貨幣を中心としたものであるが、それぞれの王の最後に「一言語貨幣：」として一言語貨幣の状況を参考までに付した。ギリシア文字ギリシア語を G、ブラーフミー文字インド語を B、カローシュティー文字インド語（プラークリット）を K と略記する。

### 二言語併用貨幣の銘文総表

01 ディオドトス I 世(前 256-前 248) 二言語併用無し

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 | l15

02 ディオドトス II 世(前 248-前 235) 二言語併用無し

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 | l31

03 エウテュデモス I 世(前 235-前 200) 二言語併用無し

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 | l37、円形 G2 語 2 行 <sup>1</sup>15

04 デメトリオス I 世(前 200-前 185) 二言語併用無し

Mitchiner (1975:55-61)は、I 世の貨幣と II 世の貨幣を区別せずに DEMETRIOS として提示する。その中に含まれる二言語併用貨幣は全て II 世が発行した貨幣として処理することができるので、I 世に二言語併用貨幣はない。詳細はデメトリオス II 世の項参照。

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 <sup>1</sup>1、円形 G2 語 2 行 | l47

05 エウテュデモス II 世(前 200-前 190) 二言語併用無し

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 | l25

06 アンティマコス I 世(前 190-前 180) 二言語併用無し

Mitchiner (1975:73-76)は、I 世の貨幣と II 世の貨幣を区別せずに ANTIMACHOS として提

示する。その中に含まれる二言語併用貨幣は全てⅡ世が発行した貨幣として処理することができるので、Ⅰ世に二言語併用貨幣はない。詳細は第二群のアンティマコスⅡ世の項を参照。

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 | l<sub>21</sub>、円形両面表 G2 語 2 行 | l / 裏 G3 語 2 行 | l<sub>3</sub>、方形 G2 語 2 行 | l<sub>4</sub>

#### 07 パンタレオン(前 185-前 175)

【161 方形 2 行】 4 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の)<sup>5</sup> / 下 pantaleontos(パンタレオンの) | |  
裏 Brāhmī: 右 rajane(王の)<sup>6</sup> / 左 pamtalevasa(パンタレオンの) | |

\*一言語貨幣：【157】 円形 G2 語 2 行 | l<sub>3</sub>、円形 G2 語 2 行 | l<sub>4</sub>

#### 08 アガトクレス(前 180-前 165)

【149 方形 2 行】 1 枚

表 Greek: 右 basileōs(王の) / 左 agathokleōs(アガトクレスの) | |  
裏 Brāhmī: 右 rajane(王の) / 左 agathuklayasa(アガトクレスの) | |

【151 方形 2 行】 2 枚+4 枚=6 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) / 下 agathokleōs(アガトクレスの) | |  
裏 Brāhmī: 右 rajane(王の) / 左 agathuklayasa(アガトクレスの) | |

※ 【152/4 枚】 4 枚は 【151】 と同じ。

\*一言語貨幣：【137, 138, 139, 140】 円形 G2 語 2 行 | l<sub>8</sub>、【141】 円形 G3 語 2 行 | l<sub>1</sub>、【142】 円形両面表 G3 語 2 行 | l / 裏 G3 語 2 行 | l<sub>2</sub>、【143, 144, 145, 146】 円形両面表 G2 語 2 行 | l / 裏 G3 語 2 行 | l<sub>5</sub>、【147, 148】 円形 G2 語 2 行 | l<sub>12</sub>

#### 09 デメトリオスⅡ世(前 180-前 165)

Mitchiner (1975:55-61)は、Ⅰ世とⅡ世の貨幣を区別せずに DEMETRIOS として提示する。DEMETRIOS に収録されている各種貨幣を画像と銘文の類似に依りまとめると次の 8 種と

<sup>5</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:309)のギリシア語は basileys を王とする。その単数属格として basileōs を挙げる。

<sup>6</sup> Narain (2003:348)は rajane を王の属格とする。T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:579)のパーリ語は rājā(rājan)を王とする。その単数属格として rañño, rājino を挙げる。-ne を属格とする語構成については不明であるが、対応するギリシア語銘文に従い rajane を王の属格とする。

なる。1【101】【102】、2【103】【104】【105】、3【106】【107】、4【108】、5【109】、6【110】、7【111】、8【112 方形】となる。これらは銘文の特徴により 1～5 と 6,7,8 の二種に分けることができる。

	1～5	6,7,8
銘文：basileōs(王の)+ 王名	○	
銘文：basileōs(王の)anikētoy(無敵の)+ 王名		○
銘文：一言語	○	
銘文：二言語併用		○
銘文：線状	○	
銘文：円状		○ (8 は方形で、左・上・右の三辺に銘文を配する。これを円状の配置の一種と見る。)

1～5 と 6,7,8 の二種のうち何れがⅡ世のものか。銘文が縦もしくは横に線状に配置されるかそれとも貨幣の淵に沿って円状に配置されるか (8 の方形貨幣は辺に沿って配置される。円状の一種とする) を見ると、円状に配置されるのはエウクラティデスⅠ世(前 171-前 155)以降であり、円状は相対的に後期のものと見ることができる。これにより 6,7,8 を、1～5 よりも後のもの、すなわちデメトリオスⅡ世のものとする。

【110 円形 2 行】 1 枚+1 枚=2 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)anikētoy(無敵の)<sup>7</sup> / 下 dēmētrioy(デメトリオスの) 

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)<sup>8</sup> aparajitasa(無敵の)<sup>9</sup> / 下 dimetriyasa(デメトリオスの)



※【111/1 枚】は、【110】と同じ。但し表裏ともに 。

【112 方形 1 行】 2 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) 上 anikētoy(無敵の) 右 dēmētrioy(デメトリオスの) 

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 aparajitasa(無敵の) 左 dimetriyasa(デメトリオスの) 

\*一言語貨幣：無し

<sup>7</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:143)のギリシア語は *anikētos* を *unconquered*(征服されない), *unconquerable*(征服できない)とする。グプタ, P.L.(1969,山崎元一他訳 2001:24)は *anikētoy* に「無敵の」との日本語訳を付す。山崎氏の訳による。

<sup>8</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:579)のパーリ語は *mahārājā* を *great king*(大王)とする。水野弘元(2000;10 版)のパーリ語文法によると名詞の -a 語基, -an 語基の属格を -assa とする。

<sup>9</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:52)のパーリ語は *aparājita* を形容詞の *unconquered*(征服されない)とする。ギリシア語 *anikētoy*(無敵の)の訳語と合わせて無敵のとする。

## 10 エウクラティデス I 世(前 171-前 155)

Mitchiner (1975:86-100)は、I 世と II 世の貨幣を区別せずに EUCRATIDES として提示する。Narain (2003:141)によるとエウクラティデス II 世(前 140- 無記)は前掲「図 1 王の系譜と五群」にあげた内の第四群に属す。第四群の共通点はゼウス神図像の使用にあるが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイを使用する<sup>10</sup>。ゼウス神は使用しない。EUCRATIDES 中、アポロン神とディオスクーロイを使用するものはエウクラティデス II 世として良いとして、ニケ神と都市カピシャの守護神を使用するものについては I 世と II 世の可能性がある。証拠が見つかるまでの便宜的な措置として、ニケ神と都市カピシャの守護神を I 世のものとして処理する。

【189 方形 2 行】 1 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) 右 megaloy(大きい)<sup>11</sup> / 下 eykratidoy(エウクラティデスの) □  
裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) / 左 evukratidasa(エウクラティデスの) | |

【193 方形 1 行】 6 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 megaloy(大きい) 右 eykratidoy(エウクラティデスの) □  
裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 rajatirajasa(諸王の中の王の)<sup>12</sup> 左 evukratidasa(エウクラティデスの) □

【194 方形 1 行】 5 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 megaloy(大きい) 右 eykratidoy(エウクラティデスの) □  
裏 Kharoshthi: 右 kaviṣiye(カピシャの)<sup>13</sup> 上 nagara(城)<sup>14</sup> 左 devata(女神)<sup>15</sup> □

<sup>10</sup> Narain (2003:141)には「(IV) Eucratides II, Archebius, Heliocles II, Antialcidas, Diomedes, Amyntas, Telephus, and Hermaeus seem to belong to the family of Eucratides I. With the exception of Eucratides II and Diomedes, who use Apollo and Dioscuri respectively, the kings of this group are associated by their main type, Zeus.」とある。前田耕作(2019:244)は Narain 氏の議論を参照して、第四群の共通点として「アポロンを採用していることで共通している」(244 頁)とするがこれは何かの誤解である。上に挙げた Narain 氏の引用文に依るならば、第四群はゼウス神の採用を共通点とするが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイ(Διοσκούροι)を使用し、ゼウス神は使用しない。

<sup>11</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:1088)のギリシア語は megas を big(大きい)、属格は megaloy とする。

<sup>12</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921)のパーリ語は rājā(rājan)を king(王)とする。荻原雲来・辻直四郎(1979)は rajaraja を「諸王の中の王」とする。

<sup>13</sup> Mitchiner (1975:100)は kavisiye とローマ字に翻字するが原字を見ると si ではなく śi である。Mitchiner は kapisa を都市名とする。

<sup>14</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:353)のパーリ語は nagara を a (fortified)town,city(要塞化された都市)とする。

<sup>15</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:337)のパーリ語は devatā を(f.) divine being, deity, fairy

\*一言語貨幣：【166, 167】円形(ヘラクレス図像)G2 語 2 行 | 3

11 メナンドロス(前 155-前 130)

【213 円形 1 行】 6 枚+12 枚=18 枚

表 Greek: basileōs(王の)sōtēros(救済者の)<sup>16</sup>menandroy(メナンドロスの) ○

裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)<sup>17</sup>mena(or menam)drasa<sup>18</sup>(メナンドロスの) ○

※【220/12 枚】は【213】と同じ。

【214 円形 2 行】 9 枚+99 枚=108 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 menandroy(メナンドロスの) ○

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 menadrassa(メナンドロスの) ○

※【215/32 枚, 216/1 枚, 217/12 枚, 218/17 枚, 219/6 枚, 221/7 枚, 223/1 枚, 224/11 枚, 225/5 枚, 226/3 枚, 227/4 枚】は【214】と同じ。表裏ともに行間が無い○も混じる。行間がある○が基本形で行間が無い○は、その異形と見る事ができる。

【228 円形 2 行】 1 枚+4 枚=5 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の)dikaioy(正義の)<sup>19</sup> / 下 menandroy(メナンドロスの) ○

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の)dhramikasa(正義の)<sup>20</sup> / 下 menadrassa(メナンドロスの) ○

※【229/2, 230/2】は【228 円形】と同じ。

---

とするので「神格、多神教の神、妖精」に相当する。グプタ (1969,山崎訳 2001:24)は「カビシャー市の守護女神」とする。

<sup>16</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:1751)のギリシア語は *sōtēr* を *saviour*(救世主), *deliverer*(救済者)とする。救済者という訳語を採る。

<sup>17</sup> 荻原雲来・辻直四郎(1979:554)のサンスクリット語は *trātṛ* を「保護者, 救助者」とする。貨幣銘文の *tratar* は *trātṛ* に対応する語であろう。その属格形は *tratarasa*。ギリシア語と表現を合わせて「救済者の」と和訳する。なおカローシュティ文字の *tratarasa* における *ta* の後の *ra* の字形は、*maharajasa* の *ra* と異なり、左に平行に突き出た部分がない。

<sup>18</sup> *menadrassa* のように *-na-* と翻字できるものが大半であるが *menamdrassa* のように *-nam-* と翻字できるものもある。これ以後は *-na-* として翻字する。

<sup>19</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:429)のギリシア語は *dikaioy* を *observant of duty to gods and men* (神や人に対する責務・義務に従う), *righteous* (正義の) とする。Narain (2003:348)は *just* (公平な, 正当な) とする。グプタ (1969,山崎訳 2001:24)は「正義の」とする。

<sup>20</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:347)のパーリ語は *dhammika* を [adj.=Sk.dharma] とし、*law ful*(合法的な), *legitimate*(正当な), *righteous*(正義の), *honourable*(高潔な)などとする。荻原雲来・辻直四郎(1979:638)のサンスクリット語は *dharmya* を「合法の, 神聖な習慣によって許された, 正当の」とする。グプタ (1969,山崎訳 2001:26)は一段踏み込んだ訳を採用し「正しい法に立つ」とする。ここではギリシア語の表現と合わせて「正義の」とする。

【231 方形 1 行】 6 枚+81 枚=87 枚

表 Greek:左 basileōs(王の)上 sōtēros(救済者の)右 menandroy(メナンドロスの) □

裏 Kharoshthi:右 maharajasa(大王の)上 tratarasa(救済者の)左 menadrassa(メナンドロスの) □

※【232 方形 2 枚, 233 方形 9 枚, 235 方形 4 枚, 236 方形 3 枚, 238 方形 5 枚, 239 方形 3 枚, 240 方形 15 枚, 242 方形 4 枚, 243 方形 4 枚, 244 方形 7 枚, 245 方形 8 枚, 246 方形 11 枚(+3 枚+1 枚)\*, 249 方形 2 枚, 250 方形 2 枚, 251 方形 2 枚】は【231 方形】と同じ。

\*246 方形中の 3 枚と 1 枚は銘文の配置が異なる。3 枚の方を 246' とし、1 枚の方を 246'' として次に提示する。

\*【246' 方形 2 行】 3 枚

表 Greek : 左 sōtēros 上 basileōs / 下 menandroy (王名属格) □

裏 Kharoshthi : 上 maharajasa tratarasa / 下 menadrassa (王名属格) □

\*【246'' 方形表 1 行, 裏 2 行】 3 枚

表 Greek : 左 basileōs 上 sōtēros 下 menandroy (王名属格) □

裏 Kharoshthi : 上 maharajasa tratarasa / 下 menadrassa (王名属格) □

【237 方形 2 行】 9 枚

表 Greek:上 basileōs(王の)右 sōtēros(救済者の) / 下 menandroy(メナンドロスの) □

裏 Kharoshthi:上 maharajasa(大王の)左 tratarasa(救済者の) / 下 menadrassa(メナンドロスの) □

【247 方形表 2 行と裏 1 行】 1 枚

表 Greek:上 basileōs(王の)右 sōtēros(救済者の) / 下 menandroy(メナンドロスの) □

裏 Kharoshthi:右 maharajasa(大王の)上 tratarasa(救済者の)左 menadrassa(メナンドロスの) □

【252 方形 1 行】 5 枚+2 枚=7 枚

表 Greek:左 basileōs(王の) 上 dikaioy(正義の)右 menandroy(メナンドロスの) □

裏 Kharoshthi:右 maharajasa(大王の) 上 dhramikasa(正義の)左 menadrassa(メナンドロスの) □

※【253/1 枚, 254/1 枚】は【252】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G3 語 2 行 | 2

第一群 共通点はパラス・アテナ女神画像あるいはアポロン神画像の使用

12 ストラトン I 世(前 130-前 95)

【303 円形 2 行】 2 枚

表 **Greek:**上 basilissēs(女王の)<sup>2 1</sup>theotropoy(神のような)<sup>2 2</sup> / 下 agathokleias(アガトクレイアの)<sup>2 3</sup> ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

【305 円形 2 行】 1 枚

表 **Greek:**上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の)stratōnos(ストラトンの) / 下 kai(と)<sup>2 4</sup>agathokleias(アガトクレイアの) ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)stratasa(ストラトンの) / 下 agathukriae(アガトクレイアの) ○

【306 円形 2 行】 3 枚

表 **Greek:**上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の)stratōnos(ストラトンの) / 下 kai(と)agathokleias(アガトクレイアの) ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

【307 方形 1 行】 6 枚

表 **Greek:**左 basilissēs(女王の)上 theotropoy(神のような)右 agathokleias(アガトクレイアの) □

裏 **Kharoshthi:**右 maharajasa(大王の)上 tratarasa(救済者の)dhrami 左 kasa(正義の)stratasa(ストラトンの) □

【308 円形 2 行】 5 枚+3 枚=8 枚

表 **Greek:**上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 stratōnos(ストラトンの) ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

※ 【309/3 枚】 は 【308】 と同じ

<sup>21</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は *basileia* を「fem. of *basileys*:—queen」(309 頁)とし、*basilissa* を「Eust Roman Imperial princess」(310 頁)とする。Sear, D. R. (1979)によりプトレマイオス朝の貨幣銘文をみると、女王ベレニケ II 世は *berenikēs basilissēs*(737 頁)とあり、女王クレオパトラ I 世は *kleopatras basilissēs*(746 頁)とある。これより *basilissēs* を *basilissa*(女王)の属格形とする。

<sup>22</sup> Narain (2003:349)は *theotropoy* を「God-like, Godmannered」(神のような)とする。H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は *theos* を「God」神とし、*tropos* を「turn」(回転)「direction」方向、「way」方法、方向「manner」振る舞い、「fashion」様式・やり方、「guise」外観・身なり、などとする。*theotropoy* を、*theotropos*(神の振る舞い)の、男・単数・属格形と見て Narain の訳「神のような」に従う。

<sup>23</sup> Mitchiner (1975:vol.2,169)はアガトクレイアをストラトンの母であり摂政とする。

<sup>24</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は *kai* を「and」(~と)とする。

【311 円形 2 行】 1 枚+6 枚=7 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 stratōnos(ストラトンの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

※ 【312/1 枚, 313/4 枚, 314/1 枚】 は 【311】 と同じ。

【315 円形 2 行】 1 枚+12 枚=13 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の)kai(と)dikaioy(正義の) / 下 stratōnos(ストラトンの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

※ 【316/3 枚, 317/6 枚, 318/1 枚, 319/2 枚】 は 【315】 と同じ。

【320 円形 2 行】 5 枚+8 枚=13 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の)dikaioy(正義の) / 下 stratōnos(ストラトンの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)dhramikasa(正義の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

※ 【321/1 枚, 324/2 枚, 325/1 枚, 326/1 枚, 327/1 枚, 328/1 枚, 329/1 枚】 は 【320】 と同じ。

【330 円形 2 行】 3 枚+21 枚=24 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)epiphanoys(高名な)<sup>25</sup>sōtēros(救済者の) / 下 stratōnos(ストラトンの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)pracachasa(高名な)<sup>26</sup>tratarasa(救済者の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○

※ 【331/12 枚, 332/6 枚, 335/3 枚】 は 【330】 と同じ。

【333 方形 1 行】 8 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 stratōnos(ストラトンの) □

<sup>25</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は epiphanēs を「coming to light」(明らかになる)「coming suddenly into view」(出現する、顕現する)、「famous」(有名な)「renowned」(高名な)とする。Narain (2003:348)は epiphanoys を「illustrious」(著名な、名高い、偉大な)とする。グプタ (1969,山崎元一他訳 2001:24)に「顕現の」との日本語訳があるのは辞典の前半の意味によるものである。ここでは、epiphanoys を形容詞 epiphanēs の属格と見て「高名な」とする。

<sup>26</sup> Narain (2003:348)は epiphanoys と pracachasa の両者に英訳「illustrious」(著名な、名高い、偉大な)を付す。pracachasa の語構造を説明できないが意味は Narain (2003:348)によることとする。

裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 stratasa(ストラトンの) □

【334 方形 1 行】 2 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) sō 上 tēros(救済者の) dikaioy(正義の) 右 stratōnos(ストラトンの) □

裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) dhrami 左 kasa(正義の) stratasa(ストラトンの) □

【336 方形 1 行】 6 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) epipha 上 noys(高名な) sōtē 右 ros(救済者の) stratōnos(ストラトンの) □

裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 pracachasa(高名な) 左 tratarasa(救済者の) stratasa(ストラトンの) □

\*一言語貨幣：無し

13 アポッドトス (前 115-前 95)

【423 円形 2 行】 7 枚

表 **Greek**: 上 basileōs(王の) megaloy(偉大な) sōtēros(救済者の) kai(と) philopatoros(父を敬う)<sup>27</sup>  
／下 apollodotoy(アポッドトスの) ○

裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の)／下 apaladatasa(アポッドトスの) ○

【424 円形 2 行】 35 枚

表 **Greek**: 上 basileōs(王の) sōtēros(救済者の) kai(と) philopatoros(父を敬う)／下 apollodotoy(アポッドトスの) ○

裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の)／下 apaladatasa(アポッドトスの) ○

【425 円形 2 行】 11 枚+12 枚=23 枚

表 **Greek**: 上 basileōs(王の) sōtēros(救済者の)／下 apollodotoy(アポッドトスの) ○

裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の)／下 apaladatasa(アポッドトスの) ○

※ 【432/12 枚】 は 【425】 と同じ。

【427 方形 2 行】 4 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) sō 上 tēros(救済者の) kai(と) 右 philopatoros(父を敬う)／下

---

<sup>27</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961)のギリシア語は philopatōr を「loving one's father」(父を愛すること)とする。philopatoros は philopatōr の属格。グプタ (1969,山崎元一他訳 2001:24)に「父を敬う」との日本語訳があり、これに従う。

apollodotoy(アポッロドトスの) □

裏 **Kharoshthi**: 右 mahara 上 jasa(大王の) trata 左 rasa(救済者の) / 下 apaladatasa(アポッロドトスの) □

【428 方形 1 行】 4 枚+10 枚=14 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 apollodotoy(アポッロドトスの) □

裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 apaladatasa(アポッロドトスの) □

※ 【429/7 枚, 433/3 枚】 は 【428】 と同じ。

【431 (円形) \* 方形 1 行】 4 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 apollodotoy(アポッロドトスの) □

裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 apaladatasa(アポッロドトスの) □

\* 地金は円形であるが、銘文の配置は方形。

【434 円形 2 行】 1 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) / 右 apollodotoy(アポッロドトスの)<sup>28</sup> ||

裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の) / 下 apaladatasa(アポッロドトスの) ○

\*一言語貨幣: 【435】 方形 (地金円形・銘文方形) K3 語 1 行 □3。【436, 437】 方形 K3 語 1 行 □3。  
共に小型の粗雑な貨幣。

#### 14 ゾイロス II 世 (前 95-前 80)

【458 円形 2 行】 9 枚+42 枚=51 枚

表 **Greek**: 上 basileōs(王の) sōtēros(救済者の) / 下 zōiloy(ゾイロスの) ○

裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の) / 下 jhoilasa(ゾイロスの) ○

※ 【459/34 枚, 461/2 枚, 462/6 枚】 は 【458】 と同じ。

【460 方形 1 行】 1 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 zōiloy(ゾイロスの) □

裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 jhoilasa(ゾイロスの) □

\*一言語貨幣: 【464】 円形 K3 語 2 行 ○7

#### 15 ディオニュシウス (前 95-前 80)

【454 円形 2 行】 3 枚

<sup>28</sup> basileōs は貨幣の左側縦(内から外を向く)、apollodotoy は貨幣の右側縦(外から内を向く)。

表 **Greek**: 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 dionysioy(ディオニュシウスの) ○  
裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 diunisiyasa(ディオニュシウスの)  
○

【455 方形 1 行】 6 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 dionysioy(ディオニュシウスの) □  
裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 diunisiyasa(ディオニュシウスの)  
□

【456 (円形) 方形 1 行 \* (地金は円形で銘文の配置は方形)】 1 枚

表 **Greek**: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 dionysioy(ディオニュシウスの) □  
裏 **Kharoshthi**: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 diunisiyasa(ディオニュシウスの)  
□

\*一言語貨幣 : 【457】 方形 K3 語 1 行 □5

#### 16 アポロパネス (前 95-前 80)

【467 円形 2 行】 9 枚

表 **Greek**: 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 apollophanoy(アポロパネスの) ○  
裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 apulaphanasa(アポロパネスの)  
○

\*一言語貨幣 : 無し

#### 17 ストラトン II 世 (前 80-前 75)

【468 円形 2 行】 12 枚+8 枚=20 枚

表 **Greek**: 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 stratōnos(ストラトンの) ○  
裏 **Kharoshthi**: 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 stratasa(ストラトンの) ○  
※ 【469/8 枚】 は 【46】 と同じ。

(【473 円形】 20 枚)

表 **Greek**: basileōs sōtēros stratōnos kai phil stratōnos<sup>2 9</sup>

裏 **Kharoshthi**: maharajasa tratarasa stratasa putrasa casa priyapita stratasa

※ Mitchiner (1975:280) は 【473 円形】 の銘文を上記のように提示するが画像が不鮮明なため確認が困難である。【474】 【475】 の銘文も同様に確認が困難である。

<sup>2 9</sup> Mitchiner (1975:vol.3,280) は後者のストラトンを III 世とする。

\*一言語貨幣：【472】円形 K3 語 2 行○<sub>1</sub>。小型粗雑。

## 第二群 共通点は跳ね馬に乗る王の図像の使用

### 18 アンティマコスⅡ世(前130-前125)

Mitchiner (1975:73-76)はⅠ世とⅡ世を分けずに ANTIMACHOS として貨幣を提示する。ANTIMACHOS に収録されている各種貨幣を図像と銘文の類似によりまとめると次の7種となる。1【124】【125】【126】【127】、2【128】、3【129】、4【130】、5【133】【134】、6【135】、7【136】である。これらを更に図像と銘文の特徴により1~5と6,7の二種に分けることができる。

	1~5	6,7
銘文：basileōs(王の)theoy(神の) + 王名	○(1~5)	
銘文：basileōs(王の) + 王名	○(5)	
銘文：basileōs(王の)nikēphoroy(勝利をもたらす) + 王名		○
銘文：一言語	○(裏面)	
銘文：二言語併用		○(表面と裏面)
図像：象	○(4と5のみ)	
図像：前足を高く上げて駆ける馬に乗る王		○(6のみ)

この二種のうち何れがⅡ世のものか。Narain (2003:141-142)は、メナンドロス(前155-前130)の死後、の前130年以降について、貨幣の図像により諸王を五群に分ける。前掲図3「王の系譜と五群」参照。アンティマコスⅡ世は第二群に属しておりその図像の共通点は「前足を高く上げて駆ける馬に乗る王」を含むことにある。6は騎馬の図像をもつのでアンティマコスⅡ世のものである。7に騎馬の像はないが、6と他の共通点により、これもアンティマコスⅡ世のものともみることができる。

【135円形1行】16枚

表 Greek: basileōs(王の)nikēphoroy(勝利をもたらす)<sup>30</sup>antimaxoy(アンティマコスの) ○  
裏 Kharoshthi: maharajasa(大王の)jayadharasa(勝利をもたらす)<sup>31</sup>amtimakhasa(アンティマコ

<sup>30</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:1176)のギリシア語は nikēphoros を「bringing victory」(勝利をもたらすもの)、「victorious」(勝利した)とする。nikēphoroy を nikēphoros の属格形とし「勝利をもたらす」とする。グプタ (1969,山崎元一他訳 2001:24)は「勝利をもたらす」との日本語訳を付す。

<sup>31</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:284,347)のギリシア語は jaya を「victory」(勝利)、dhara を「(adj.)bearing,wearing;holding in mind」(たもつ、着けている、心に止めている)とする。Narain (2003:347)は nikēphoroy と jayadharasa の両者に英訳「victorious」(勝利した)を付す。グプタ (1969,山崎元一他訳 2001:24)が nikēphoroy に付した日本語訳「勝利をもたらす」に

スの) ○

【136 方形 1 行】 6 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 nikēphoroy(勝利をもたらす) 右 antimaxoy(アンティマコスの) □  
裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 jayadharasa(勝利をもたらす) 左 amtimakhasa(アンティマコスの) □

\*一言語貨幣：無し

19 ピロクセノス(前 125-前 115)

【338 円形 2 行】 16 枚+10 枚=26 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) anikētoy(無敵の) / 下 philoxenoy(ピロクセノスの) ○  
裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) apadihatasa(無敵の)<sup>3 2</sup> / 下 philasinasa(ピロクセノスの)  
○

※【340/4 枚, 343/6 枚】は【338】と同じ。

【339 方形 1 行】 11 枚+26 枚=37 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 anikētoy(無敵の) 右 philoxenoy(ピロクセノスの) □  
裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 apadihatasa(無敵の) 左 philasinasa(ピロクセノスの) □  
※【341/12 枚, 342/2 枚, 344/10 枚, 346/2 枚】は【339】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G3 語 2 行 ○<sup>3</sup>

20 ニキアス(前 95-前 85)

【377 円形 2 行】 1 枚+3 枚=4 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) sōtēpos(救済者の) / 下 nikioy(ニキアスの) ○  
裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の) / 下 nikiasa(ニキアスの) ○  
※【378/2 枚, 379/1 枚】は【377】と同じ。【378/2 枚】表裏○。【379/1 枚】表裏○。

【382 方形 1 行】 1 枚+5 枚=6 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 nikioy(ニキアスの) □  
裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 nikiasa(ニキアスの) □

よる。

<sup>3 2</sup> Narain (2003:347)は、apadihatasa と anikētoy の両者に、英訳「invincible」(無敵の)を付す。これに従う。なお、09 デメトリオスII世【110】に、ギリシア語 anikētoy(無敵の)に対応するインド語(プラークリット)として aparajitasa(無敵の)がある。apadihatasa と aparajitasa の関係については検討の必要がある。

※【383/5枚】は【380】と同じ。

\*一言語貨幣：無し

## 21 ヒッポストラトス(前85-前70)

【439円形2行】4枚+7枚=11枚

表 **Greek:**上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 ippostratoy(ヒッポストラトスの) ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 hipustratasa(ヒッポストラトスの)

○

※【440/3枚,447/4枚】は【439】と同じ。

【441円形2行】2枚+1枚=3枚

表 **Greek:**上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 ippostratoy(ヒッポストラトスの) ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)jayamtasa(勝利者の)<sup>3 3</sup> / 下

hipustratasa(ヒッポストラトスの) ○

※【442/1枚】は【441】と同じ。

【443円形2行】9枚+9枚=18枚

表 **Greek:**上 basileōs(王の)megaloy(偉大な)sōtēros(救済者の) / 下 ippostratoy(ヒッポストラトスの) ○

裏 **Kharoshthi:**上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の)mahatasa(偉大な)<sup>3 4</sup> jayamtasa(勝利者の) / 下 hipustratasa(ヒッポストラトスの) ○

※【444/3枚,445/6枚】は【443】と同じ。

【446方形1行】5枚+5枚=10枚

表 **Greek:**左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 ippostratoy(ヒッポストラトスの) □

裏 **Kharoshthi:**右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 hipustratasa(ヒッポストラトスの) □

※【448/5枚】は【446】と同じ。

---

<sup>3 3</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:284)はパーリ語 jaya を victory(勝利)とする。水野弘元(2023:133)はパーリ語 jayaṃ を勝利者とする。Narain (2003:347)はパーリ語 jayamtasa を conquering(征服すること、打ち勝つこと)とする。jayamtasa を jayaṃ(勝利者)の属格形と見て「勝利者の」とする。

<sup>3 4</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:149)はパーリ語 mahatta を greatness(偉大)とする。Narain (2003:348)はパーリ語 mahatasa を great(偉大な)とする。mahatasa を mahatta (偉大)の属格形とみる。

【449 方形 1 行】 2 枚+3 枚=5 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 ippostratoy(ヒッポストラトスの) □

裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) tra 上 tarasa(救済者の) jayamtasa(勝利者の) 左 hipustratasa(ヒッポストラトスの) □

※ 【450/3 枚】 は 【449】 と同じ。

\*一言語貨幣：無し

### 第三群 共通点はヘラクレス神画像の使用

22 ゾイロス I 世(無記-前 125)

【255 円形 2 行】 1 枚+18 枚=19 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) dikaioy(正義の) / 下 iōloy(ゾイロスの) ☉

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) dhramikasa(正義の) / 下 jhoilasa(ゾイロスの) ☉

※ 【256/13 枚, 257/5 枚】 は 【255】 と同じ。【256】 は表裏☉。【257】 は表裏☉。

【258 方形表 2 行と裏 1 行】 5 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 dikaioy(正義の) / 下 iōloy(ゾイロスの) □

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) 左 dhramikasa(正義の) 下 jhoilasa(ゾイロスの) □

\*一言語貨幣：無し

23 リュシラス(前 120-前 110)

【261 円形 2 行】 2 枚+19 枚=21 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) anikētoy(無敵の) / 下 lysioy(リュシラスの) ☉

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) apadihatasa(無敵の) / 下 lisikasa(リュシラスの) ☉

※ 【262/8 枚, 264/6 枚, 265/1 枚, 267/4 枚】 は 【261】 と同じ。【265】 は表裏☉。

【266 方形 1 行】 14 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 anikētoy(無敵の) 右 lysioy(リュシラスの) □

裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 apadihatasa(無敵の) 左 lisiasa(or lisikasa)(リュシラスの) □

\*一言語貨幣：円形 G3 語 1 行☉<sup>3</sup>。銀貨。

24 テオピロス(無記-前 85)

【372 円形 2 行】 1 枚+3 枚=4 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の)dikaioy(正義の) / 下 theophiloy(テオピロスの) 

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の)dhramiasa<sup>3 5</sup>(正義の) / 下 theuphilasa(テオピロスの) 

※【373/1枚, 374/2枚】は【272】と同じであるが 374は dhramikasa とする。

【375 方形 1 行】 2 枚+3 枚=5 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 dikaioy(正義の) 右 theophiloy(テオピロスの) 

裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 dhramikasa(正義の) 左 theuphilasa(テオピロスの) 

※【376/3枚】は【275】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G3 語 2 行 2。下は弧ではなく横線状。銀貨。

第四群 共通点はゼウス神図像の使用にあるが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイを使用するという<sup>3 6</sup>。

25 エウクラティデス II 世(前 140- 無記)

Mitchiner (1975)の vol. I はエウクラティデスとして I 世と II 世を区別せずに貨幣を提示するが、本稿では、アポロン神とディオスクーロイの図像を採用する貨幣を II 世のものとする。そのことは I 世の箇所述べた。なお、ニケ神と、都市カピシヤの守護神を採用する貨幣を I 世のものとするが、明確な証拠は見い出せない。便宜的な処置である。

【188 円形 2 行】 4 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の)megaloy(偉大な) / 下 vykratidoy(エウクラティデスの) 

裏 Kharoshthi: 上 rajasa<sup>3 7</sup>(王の) mahatakasa(偉大な)<sup>3 8</sup> / 下 evukratidasa(エウクラティデスの)



【190 方形 2 行】 27 枚+11 枚=38 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 megaloy(偉大な) / 下 vykratidoy(エウクラティデスの) 

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) / 下 evukratidasa(エウクラティデスの) 

※【189/1枚, 191/8枚, 195/3枚】は【190】と同じ。【189】は表  裏  。

【195】は表  裏  。

<sup>3 5</sup> Michael Mitchiner (1975:215)は dhramikasa とするが dhramiasa である。

<sup>3 6</sup> 前田耕作(2019)は第四群の共通点として「アポロンを採用していることで共通している」(244 頁)とするが、これは何かの誤解である。第四群はゼウス神の採用を共通点とすることについては先に述べた。

<sup>3 7</sup> Mitchiner (1975)は原文で maharajasa とするが、maha は確認できない。rajasa である。

<sup>3 8</sup> T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:149)はパーリ語 mahatta を greatness(偉大)とする。Narain (2003:348)はパーリ語 mahatasa, mahatakasa を great(偉大な)とする。 aka,ka(接尾辞)+asa,sa(属格語尾)。mahatakasa は名詞「偉大なる者」もしくは形容詞「偉大な」の属格とする。

\*一言語貨幣：円形 G2 語 2 行 | 35、円形 G2 語 2 行 20、円形 G3 語 1 行 3、円形 G3 語 2 行 (下は横線状) 32、円形 G 表 3 語 2 行 / 裏 3 語 2 行 7、以上全て銀貨。円形 G3 語 2 行 (下は横線状) 10、銅貨。

## 26 アルケビオス(前 130-前 120)

【356 円形 2 行】 7 枚+29 枚=36 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)dikaioy(正義の)nikēphoroy(勝利をもたらす) / 下 arkhebioy(アルケビオスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)dhramikasa(正義の)jayadharasa(勝利をもたらす) / 下 arkhebiyasa(アルケビオスの) ○

※【357/5 枚, 358/9 枚, 359/3 枚, 361/2 枚, 362/4 枚, 363/1 枚, 364/2 枚, 367/3 枚】は【356】と同じ。

【360 円形 2 行】 1 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)dikaioy(正義の)kai(と)nikēphoroy(勝利をもたらす) / 下 arkhebioy(アルケビオスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)dhramikasa(正義の)jayadharasa(勝利をもたらす) / 下 arkhebiyasa(アルケビオスの) ○

【365 方形 1 行】 4 枚+4 枚=8 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の)di 上 kaioy(正義の)nikēpho 右 roy(勝利をもたらす) arkhebioy(アルケビオスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の)dhra 上 mikasa(正義の)jayadhara 左 sa(勝利をもたらす) arkhebiyasa(アルケビオスの) □

※【368/4 枚】は【365】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G4 語 2 行 1、銀貨。

## 27 ヘリオクレス II 世(前 120-前 115)

Mitchiner (1975:160-166)は、HELIOCLES として I 世と II 世を区別せずに貨幣画像を提示する。その中、第四群共通の図像のゼウス神を使用する貨幣を、ヘリオクレス II 世のものとし提示する。ゼウス神以外の貨幣も、II 世のものである可能性はあるが、その判断は困難である。少なくとも、ゼウス神を使用する貨幣は II 世のものであると判断した次第である。

【288 円形 2 行】 5 枚+27 枚=32 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)dikaioy(正義の) 右 ēliokleoy(へリオクレスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 dhramikasa(正義の) 左 heliyakreyasa(へリオクレスの)

○

※【289/19 枚\*, 290/3 枚, 291/1 枚, 292/1 枚, 293/3 枚\*】は【288】と同じ。\*Kharoshthi につき、【289】は heliyakreyasa(or heliyakreasa)、【293】は heliyakreasa とする。

【294 方形 1 行】 10 枚+7 枚=17 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) 上 dikaioy(正義の) 右 ēliokleoy(へリオクレスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 dhramikasa(正義の) 左 heliyakreyasa(へリオクレスの)

□

※【295/1 枚, 296/5 枚, 297/1 枚】は【294】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G3 語 2 行 □<sub>31</sub>、銀貨。

## 28 アンティアルキダス(前 115-前 100)

【273 円形 2 行】 2 枚+42 枚=44 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の) nikēphoroy(勝利をもたらす) / 下 antialkidoy(アンティアルキダスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の) jayadharasa(勝利をもたらす) / 下 atialikidasa<sup>3 9</sup>(アンティアルキダスの) ○

※【274/2 枚, 275/9 枚, 276/3 枚, 277/15 枚, 279/10 枚, 281/3 枚】は【273】と同じ。

【280 方形 1 行】 16 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) 上 nikēphoroy(勝利をもたらす) 右 antialkidoy(アンティアルキダスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 jayadharasa(勝利をもたらす) 左 atialikidasa(アンティアルキダスの) □

\*一言語貨幣：【269】円形 G3 語 2 行 ○ (下は横線) 1。【270】円形 G3 語 2 行 ○ (下は横線) 1、【同 270, 271, 272】円形 G3 語 2 行 ○<sub>3</sub>。以上全て銀貨。

## 29 ディオメデス(前 95-前 85)

第四群の共通点はゼウス神画像の使用にあるが、エウクラティデス II 世とディオメデスは例外としてアポロン神と、ゼウス神の双子の子ディオスクーロイを使用するという。

<sup>3 9</sup> Mitchiner (1975)は amtialikidasa とするが画像に依る限り m はなく atialikidasa である。

Mitchiner (1975: 203-205)のディオメデスの貨幣は、全てディオスクーロイである。

【347 円形 2 行】 5 枚+15 枚=20 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)sōtēros(救済者の) / 下 diomēdoy(ディオメデスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)tratarasa(救済者の) / 下 diyumetasa(ディオメデスの) ○

※ 【348/3 枚, 349/2 枚, 350/4 枚, 351/4 枚, 353/2 枚】 は 【347】 と同じ。

【354 方形 1 行】 9 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 diomēdoy(ディオメデスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 diyumetasa(ディオメデスの) □

\*一言語貨幣：無し

30 テレポス (前 95-前 80)

【451 円形 2 行】 2 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)eyergetoy(恩人の)<sup>40</sup> / 下 tēlephoy(テレポスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)kalanokramasa(恩人の)<sup>41</sup> / 下 teliphasa(テレポスの) ○

【452 方形 1 行】 2 枚+3 枚=5 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) 上 eyergetoy(恩人の) 右 tēlephoy(テレポスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 kalanokrama 左 sa(恩人の) teliphasa(テレポスの) □

※ 【453/3 枚】 は 【452】 と同じ。

\*一言語貨幣：無し

31 アミュンタス (前 85-前 75)

【387 円形 2 行】 1 枚+21 枚=22 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)nikatoros(勝利者の)<sup>42</sup> / 下 amyntoy(アミュンタスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)jayadharasa(勝利をもたらず) / 下 amitasa(アミュンタス)

<sup>40</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961:712)はギリシア語 eyergetēs を benefactor(恩人)とする。水谷智洋(1996:213)はギリシア語 eyergetēs を「善行者, 恩人」とする。eyergetoy を eyergetēs (恩人)の属格形と見て「恩人の」とする。

<sup>41</sup> Kalanokramasa の語構造は分からない。ギリシア語に依り「恩人の」としておく。なお、T.W.Rhys Davids, William Stede(1921:28) は パ ー リ 語 kalla,kalya を well,healthy;clever,able;ready;fit,proper とする。荻原雲来・辻直四郎(1979:329,385)はサンスクリット語 kalyāṇa を「美しき, 愛らしき, ; 善き, 徳ある, 優れたる, 高貴の」とする。

<sup>42</sup> H. G. Liddell & R. Scott(1961) はギリシア語 nikatōr を conqueror (征服者、勝利者)とする。nikatoros を nikatōr の属格形と見て「勝利者の」とする。

の) 

※【388/7枚, 390/1枚, 391/5枚, 392/2, 393/2枚, 394/2枚, 395/2枚】は【387】と同じ。  
【391, 392, 393, 394】の表 Greek は  を含む。

【396 方形 1 行】 3 枚+5 枚=8 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 nikatoros(勝利者の) 右 amyntoy(アミュンタスの) 

裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 jayadharasa(勝利をもたらす) 左 amitasa(アミュンタスの) 

※【397/5枚】は【396】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G3 語 2 行  (下は横線) 2、銀貨。

32 カリオペ=ヘルマイオス(前 75-前 55)

【407 円形 2 行】 3 枚+3 枚=6 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) sōtēros(救済者の) ermaioy(ヘルマイオスの) / 下 kai(と) kalliopēs(カリオペの)<sup>4 3</sup> 

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の) heramayasa(ヘルマイオスの) / 下 kaliyapaya(カリオペの) 

※【408/3枚】は【407】と同じ。

【411 円形 2 行】 2 枚+124 枚=126 枚

表 Greek: 上 basileōs(王の) sōtēros(救済者の) / 下 ermaioy(ヘルマイオスの) 

裏 Kharoshthi: 上 maharajasa(大王の) tratarasa(救済者の) / 下 heramayasa(ヘルマイオスの) 

※【410/1枚, 412/4枚, 413/4枚, 414/26, 415/41枚, 418/10枚, 419/15枚, 420/9枚\*, 421/10枚, 422/4枚】は【410】と同じ。\*Mitchiner (1975:236)は【420】の Greek 銘文を basileōs ermaioy sōtēros とするがこれは Mitchiner の誤り。【412,413,414(一部)】の Greek は 。

【416 方形 1 行】 9 枚+5 枚=14 枚

表 Greek: 左 basileōs(王の) 上 sōtēros(救済者の) 右 ermaioy(ヘルマイオスの) 

裏 Kharoshthi: 右 maharajasa(大王の) 上 tratarasa(救済者の) 左 heramayasa(ヘルマイオスの) 

※【417/5枚】は【416】と同じ。

\*一言語貨幣：円形 G3 語 2 行  (下は横線) 1、銀貨。

## 第五群 共通点はアルテミス女神画像の使用

<sup>4 3</sup> Mitchiner (1975:226)によるとカリオペはヘルマイオスの妻。

33 アルテミドロス(無記-前 95)

【398 円形 2 行】 1 枚+10 枚=11 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)anikētoy(無敵の) / 下 artemidōroy<sup>4 4</sup>(アルテミドロスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)apadihatasa(無敵の) / 下 artemitorasa(アルテミドロスの)  
○

※ 【399/2 枚, 400/2 枚, 401/2 枚, 402/2 枚, 403/2 枚】 は 【398】 と同じ。

【404 方形 1 行】 8 枚

表 **Greek:** 左 basileōs(王の) a 上 nikētoy(無敵の) ar 右 temidōroy(アルテミドロスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の) 上 apadihatasa(無敵の) 左 artemitorasa(アルテミドロスの)  
□

\*一言語貨幣：無し

34 ペウコラオス(無記-前 95)

【369 円形 2 行】 1 枚

表 **Greek:** 上 basileōs(王の)dikaioy(正義の)kai(と)sōtēros(救済者の) / 下 peykolaoy(ペウコラオスの) ○

裏 **Kharoshthi:** 上 maharajasa(大王の)dhramikasa(正義の)tratarasa(救済者の) / 下 piakulaasa<sup>4 5</sup>(ペウコラオスの) ○

【370 方形 1 行】 2 枚

表 **Greek:** 左 [basileōs(王の)di 上 kaioy(正義の)]kai(と)sōtēros(救済者の) 右 peykolaoy(ペウコラオスの) □

裏 **Kharoshthi:** 右 maharajasa(大王の)dhra 上 mikasa(正義の)tratarasa(救済者の) 左 piakulaasa(ペウコラオスの) □

\*一言語貨幣：無し

---

【参考文献（発行年順）】

<sup>4 4</sup> Mitchiner (1975:223)は artemidoroy とするがこれは Mitchiner の誤りで、-dōroy である。

<sup>4 5</sup> Mitchiner (1975:213)は piukulasa とする。piu の u であるが、基本母音 a の下部に丸みを確認できないので a と翻字する。また lasa とするが la の後に a があるので laasa と翻字する。全体で piakulaasa となる。

- T.W.Rhys Davids, W. Stede(1921) *The Pali-English Dictionary*. London. Pali Text Society.  
WEB で公開されている画像による。
- John Allan(1936)*Catalogue of the Coins of Ancient India*.The British Museum,London.First Indian Edition 1975.By Oriental Books Reprint Corporation.
- H. G. Liddell & R. Scott(1961) *A Greek-English lexicon*, A new ed. rev. and augm. throughout by Sir Henry Stuart Jones, with the assistance of Roderick McKenzie and with the co-operation of many scholars. Clarendon Press.
- 中村元・早島鏡正訳(1963)(1964) 『ミリンダ王の問い』(東洋文庫) 第 1,2,3 巻, 平凡社。  
田中美知太郎・松平千秋(1970)『ギリシア語入門 改訂版』岩波書店。もと 1951 年。  
渡邊弘(1973)『西域の古代貨幣』学習研究社。
- Michael Mitchiner (1975) *Indo-Greek and Indo-Scythian coinage*, Volume I, II, III. London : Hawkins Publications.
- Michael Mitchiner (1976) *Indo-Greek and Indo-Scythian coinage*, Volume V, VI, VII. London : Hawkins Publications.
- 秀村欣二・伊藤貞夫(1976)『世界の歴史 第 2 巻 ギリシアとヘレニズム』講談社。  
荻原雲来・辻直四郎(1979)『漢訳対照 梵和大辞典』新文豊出版公司、1979 年影印。  
田辺勝美(1992)『[平山コレクション]シルクロードのコイン』講談社。
- Sims-Williams, N. & J. Cribb (1996) “A New Bactrian Inscription of Kanishka the Great”, *Silk Road Art and Archaeology* 4, 75-142.
- 水野弘元(2000)『パーリ語文法』山喜房佛書林。初版 1955 年。第 10 版 2000 年による。
- A. Glass (2000) *A Preliminary Study of Kharoṣṭhī Manuscript Paleography*. w e b 上に公開されたものによる。[http://depts.washington.edu/ebmp/downloads/Glass\\_2000.pdf](http://depts.washington.edu/ebmp/downloads/Glass_2000.pdf)
- グプタ, P.L. 著(1969)・山崎元一他訳(2001)『インド貨幣史 —古代から現代まで』刀水書房。
- A. K. Narain (2003) *The Indo-Greeks: Revisited and Supplemented*. B.R. Publishing Corporation, Delhi, 4th repr. with suppl. もと 1957 年。
- 吉池孝一(2016)「二言語併用貨幣の伝播 —ギリシア系バクトリア王国からクシャン朝まで—」『KOTONOHA』第 158 号(2016 年 1 月)、1-6 頁。
- 前田耕作(2019)『バクトリア王国の興亡 —ヘレニズムと仏教の交流の原点—』ちくま学芸文庫。もと前田耕作(1992)『バクトリア王国の興亡』(レグレス文庫)第三文明社。
- 中村雅之(2019)「ヘレニズム貨幣における王名の属格に関する覚書」『KOTONOHA』第 201 号 (2019 年 8 月)、20-21 頁。
- 水野弘元(2023)『パーリ語辞典 〈二訂版〉』春秋社、第 9 刷。初版 1968 年
- 吉池孝一(2025a)「古代ギリシアのパネースのコイン—王名属格の源流—」『KOTONOHA』第 268 号 (2025 年 3 月)、1-13 頁。
- 吉池孝一(2025b)「バクトリア王国における二言語併用貨幣の出現と伝播—インド・グリーク朝からインド・スキタイ王国、クシャン朝まで—」『KOTONOHA』第 272 号 (2025 年 7 月)、1-23 頁。

吉池孝一(2026)「バクトリア王国発行「ギリシア語インド語併用貨幣」の銘文総表(1)  
『KOTONOHA』第278号(2026年1月)、67-81頁。